



ニ之江の子

令和7年1月8日
江戸川区立ニ之江小学校
第9号

巳年に願いを込めて

校長 大石 吉郎

新年あけましておめでとうございます。

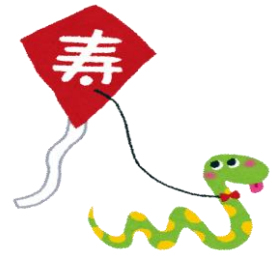
2025年の幕開け、東京ではやわらかな陽光につつまれてのスタートとなりました。一方、青森県の酸ヶ湯では、観測史上最も早い4メートル超の積雪を記録するなど、各地から冬本番を迎えた様子が届けられていました。

1月には、睦月(むつき)という異称があります。お正月は、家族が仲良く睦まじくあることの幸せを改めて実感できる機会です。各ご家庭におかれましても、この機会を大切に過ごされたことと思います。

今年は巳年、十干十二支でいうと乙巳(きのと・み)にあたります。十干は、甲乙丙…、十二支は、子丑寅…というように、古代中国では、この組み合わせで60を周期に暦や時間、方位を表していました。

乙(きのと)は、十干の2番目で「木」の要素をもち、草木がしなやかに伸びる様子や困難があっても紆余曲折しながら進む意味を表しています。また巳(み・へび)は、脱皮を繰り返し強く成長する様子から、不老不死の象徴する動物とされ、神の使いとしても信仰されてきました。

そのため乙巳(きのとみ)の年は、「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく」年になると考えられます。



「版画のはらうたⅢ」(童話屋)

だっぴ
だっぴ「すりゃ
ちよっぴり おとまで
ほく しんぴん
あたらしい としがはじまる
きぶんだよ
だから そのまじゃ
「だっぴー・ニュー・イヤー」

巳年を迎え、工藤直子さんの詩「版画のはらうたⅢ」(童話屋)から左の詩を紹介します。

「のはらうた」は、野原に住む生き物たちの代理人として、工藤さんがうたっている詩です。

今回の作者は「へびいちのすけ」さんです。

今年は、古い皮から脱皮して、新しいことにチャレンジする年。

この詩から、新年に限らず、だっぴしたと自分自身が思えたとき、「だっぴー・ニュー・イヤー」と叫んで、チャレンジできたことを喜び、さらなる次への目標に向かって突き進もう、という気持ちを大切にしていることが伝わってきます。

また、「のはらうた」には、他にも「へびいちのすけ」さんの詩が掲載されています。この機会に、野原に住む住人の生き物たちの「詩」や「へび」が登場する他の本を探して、親子で本の世界を楽しんでいただければと思います。

乙巳年は、子供たちにとっても「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく」ことができるように、今まで以上にチャレンジする年とし、子供たちの活躍を楽しみにしています。

そのためにも、保護者の皆様、地域の皆様からの引き続きのご支援ご協力をいただきながら、子供たちにとって本校の教育活動が「心のふるさと」として育まれるように、全教職員が一丸となって取り組んでまいります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。